

2022年度 韓国祥明大学校 交換留学報告書

総合管理学科 井上可奈子

私は、2022年3月から12月までの約10か月間、韓国の祥明大学校に交換留学生として在籍していました。私は中学生の時からK-POPが好きで、高校までは動画などを見るだけでしたが、大学に入り、韓国語入門の授業を受けているうちにもっと勉強したいと思うようになり、独自に勉強を始めました。大学2年生までは留学など全く考えていませんでしたが、韓国語の検定を受けたりするうちに、韓国語が聞き取れるようになったと実感できるのが嬉しく、実際に韓国へ行ってみたいという気持ちが強くなりました。3年生になり、将来について考える時期になると、就きたい職業ややりたいことがなかった私は、唯一興味があった韓国への留学を考え始めました。留学に行き現地で韓国語を学ぶことで、韓国語能力を向上させたいと思いました。また、私は今まで、したいと思ったことでも実行に移せず後悔した経験が多かったため、この韓国留学に挑戦すること、留学を通して自分を成長させることも大きな目標でした。私は韓国語能力試験（TOPIK）を受けていなかったのが不安でしたが、実際に韓国で生活してみると、話していく中で徐々に韓国語能力が向上したのを実感することができました。韓国への交換留学を考えている皆さんにとって、この報告書が少しでも参考になれば幸いです。

【 寄宿舍（寮） 】

私たち留学生は、大学の敷地内にある寮（旧館）で生活をしました。隣に新館があり、新館には男子生徒と女子生徒が入寮できます。旧館は私たちのような留学生に加えて韓国人の学生もおり、女子生徒だけ入寮できます。部屋はルームメイトと2人で使うようになっており、基本的に学部が同じ学生や年齢が近い学生と同じ部屋になることが多いと聞きました。また、指定された期間内であれば、申請をして友達と同じ部屋を使うこともできます。私は、前期はロシアから来た留学生の子とルームメイトになりました。母国語が通じない中、お互い不慣れな韓国語を使って話したり、携帯の翻訳アプリを使ってコミュニケーションを取ったりしました。生活していく中で上手いいかないこともありましたが、とても良い経験になったと考えています。後期には、前期の時に仲良くなった韓国人の友達と一緒にルームメイトになろうと誘ってくれ、申請もしてくれました。生活の中で韓国語を話す機会が増えたため、より話すことに慣れることができました。また、基本韓国人の学生は週末になると実家に帰るため、週末は一人の時間を楽しむこともできました。

部屋には、ベッド、クローゼット、机、本棚、靴箱、暖房冷房がもともと備わっています。布団やハンガー、掃除道具、スリッパ、ゴミ箱などは自分で買う必要があります。また、シャワー、トイレ、洗濯機、乾燥機、電子レンジ、給水所（冷水・熱湯）は共用となっています。全て各階に設置されており、洗濯機と乾燥機を使う際には、カード（現金でチャージ）を使って1回1000ウォンずつ払う必要があります。洗剤や柔軟剤なども自分で買い揃えます。キッチンや冷蔵庫などはなく、調理器具は使用不可のため、自炊はできません。そのため、食事は、学校の食堂や周辺の飲食店、デリバリー、パックご飯などを利用していました。電子レンジとお湯で簡単に作ることができるパックご飯とラーメンは、配達アプリ（Coupang 쿠팡）を利用して買い溜めしていました。

寮へは配布されるカードキーを使って出入りしますが、23時になると扉が開かなくなるため、23時までに寮に帰ってくる必要があります。事前に申請をすれば、午前1時に帰ることも可能です。部屋は全て暗証番号のオートロック式になっています。

▼旧館の部屋



▼デリバリーでよく食べていたチキン



▼学校の食堂でのご飯（左：キムチチゲ、右：豚肉丼）



【 交通面 】

韓国は全体的に交通費が安く、移動の面ではお金の心配をすることがほとんどありませんでした。大学の近くにはダイソーやマート、コンビニがあるため、生活に必要なものはすぐに買いに行くことができます。また、大学からバスで約10分のところに「総合バスターミナル」があり、その周辺にデパートや雑貨屋、服屋、飲食店などが集まっており、ショッピングする時によく行っていました。ソウルまでは高速バスと地下鉄で行くことができますが、高速バスだと約1時間で着き、料金も片道約5000ウォンほどで乗ることができるので便利です。高速バスに乗るときは、事前にアプリで予約購入し、「総合バスターミナル」から乗ります。（乗り場の近くにも発券機があります。）バスや地下鉄に乗るときはT-moneyカードを利用します。カードは現金でチャージする必要があります。

▼ターミナル周辺にあるサムギョプサル



【 金銭面 】

私は現金を少ししか持っていかなかったため、少し苦勞しました。まず寮費を現金で支払う必要があったうえ、T-money カードや洗濯カードへのチャージが現金のみになるため、現金は多く持って行ったほうが良いと感じました。また、私は韓国で口座を作りました。外国人登録証ができれば銀行に行ってすぐに作ることができます。口座があれば、ネットショッピングや配達アプリでの決済が楽になります。また、アプリを通して友達同士でお金を送り合うことができるため、外食をした際の割り勘なども簡単になり、とても良かったです。それだけではなく、韓国のカードでしかできないことも多くあったため、留学中には口座を作ることをおすすめしたいです。留学をするにあたって、航空券や保険、携帯のSIM など、お金のかかることが多いですが、私は JASSO の奨学金支給があったため、留学中はお金の心配をそれほどせずに生活することができました。

【 授業 】

韓国では一学期中に中間考査と期末考査があります。試験前になると寄宿舎のラウンジやカフェ、学校周辺のカフェは勉強する学生でいっぱいになります。韓国はカフェが多く、学校の中にはもちろん、寄宿舎や学校の周辺にいくつもあります。おしゃれなカフェも多く、勉強する時以外でもたくさん行っていました。

前期は、留学生向けの授業 2 つ、日本語学科の授業 2 つ、韓国語学科の授業 1 つを取りました。留学生向けの授業では、様々な国からの留学生が集まっていたため、先生も私たちが聞き取りやすいようにゆっくり話してくださり、理解しやすい授業でした。日本語学科の授業は、日本語を学んでいる韓国人学生と授業を受けるため、日本に関心のある学生が多く、優しく話しかけてくれました。また、日本語学科の先生は私たち日本人留学生を気にかけてくださり、食事にも連れて行ってくださいました。日本人の先生が受け持つ授業では、主に日本語を使って説明や発表が行われるため、理解しやすかったです。前期は、新型コロナウイルスの影響で一部の授業は遠隔で行われたため、わかりにくい部分も多く、少し残念でした。しかし、授業を受けていくうちにだんだん韓国語を聞き取れるようになっていたり、しゃべれるようになっていたりするのを感じ、嬉しかったです。

後期は、留学生向けの授業 2 つ、日本語学科の授業 1 つ、グローバル学部の授業 3 つを取りました。後期は全て対面授業になり、少し忙しくなりました。留学生向けの授業では、一人で韓国語で発表する機会が多くあったり、韓国の伝統的なお寺を見に行ったりしました。韓国に留学しているからこそできる経験をたくさんすることができました。日本語学科の授業では、「韓日関係史」という授業を取りました。この授業では、日本と韓国の関係が変化した歴史上の出来事を主に学びます。日本ではそれ

ほど重要視されていなかったような出来事が、韓国ではすごく重要な出来事として教えられていたことや、あまり細かく教わらなかったこともこの授業を通して知ることができたし、日本と韓国の関係について改めて考えるきっかけにもなりました。授業の内容自体は難しかったですが、ルームメイトにも助けをもらいながらやり遂げることができました。グローバル学部の授業では、アメリカやイギリス、フランス、ドイツについて学びました。違う国のことを韓国語で学ぶということはとても大変でしたが、なかなかできない経験をするのができて良かったです。フランスの最後の授業では、先生がフランスのぶどう酒を持ってきて全員に少しずつ飲ませてくれたのが衝撃で印象に残っています。また、後期の授業は毎回の課題がある授業が多いうえ、私は卒業論文を進める必要があったため、なかなか遊びには出かけられませんでした。が、充実した時間を過ごすことができました。

▼祥明大学の学園祭のステージ



▼フードトラック



【 イベント 】

前期の5月頃には、小さな学園祭がありました。小規模ですが、フードトラックが来たり各学科が食べ物を売ったりしてとても楽しかったです。韓国の大学の学園祭と言えばアイドルや歌手が来ることが有名ですが、祥明大学のすぐ近くにある壇国大学天安キャンパスの学園祭に歌手のPsyと(G)I-DOLが来ると聞いて見に行きました。学園祭には誰でも行くことができ、ステージの前のスペースはその大学の学生だけ入れるスペースがあります。本当にライブのような盛り上がりで、とても楽しかったです。後期には、祥明大学でも前期より大規模な学園祭がありました。歌手のKIM NA-YOUNG、YOUN-HA、ラッパーのLil Boy、MUSHVENOMが来て、パフォーマンスをしてくれました。すごく盛り上がっていて、良い思い出になりました。

さらに、後期には学部や学科の集まりもありました。今年で3回目となる日本語状況劇の競演大会で司会をしてほしいと先生に頼まれ、司会をしました。たくさんの人の前で韓国語を話すのはとても緊張しましたが、無事に終えることができました。また、学部全体の集まりで熊本県立大学の紹介をしてほしいと先生に頼まれ、簡単にパワーポイントを使って発表をすることになりました。司会の時よりも人が多く、文章も長いので緊張していましたが、終わった後には先生も褒めてくださり、やって良かったと思いました。

▼日本語状況劇の集合写真



【 休日 】

週末は、主に買い物をしに出掛けていました。だいたいバスで総合ターミナルに行きますが、時々高速バスに乗ってソウルに行ったり、韓国人の友達の地元遊びに行ったりしました。何回かソウルのホテルに泊まって2日間遊ぶ日もありました。学校の寄宿舎は飲酒禁止のため、ソウルに行ってホテルでお酒を飲んだり、居酒屋のよう



▲ソウルに行ったときに着た韓服

なところで飲んだりするのも楽しかったです。また、韓国は洋服が安く、店も多いため、見るだけでも楽しく、洋服だけでお金をたくさん使ってしまった。

夏休みになると、交換留学生は原則として帰国しなければなりません。寄宿舎に滞在する場合は料金が発生するため、韓国に残る場合はソウルの方に行って語学堂などに通う人も多いと聞きました。私は、日本に帰って友達や家族に会って休みたいという気持ちが大きかったため、一時帰国をしました。語学堂などで勉強をしていれば、より韓国語の上達に繋がったとは思いますが、日本に一度帰って休息を取ったことで、もう一度韓国で頑張ろうという気持ちになれたので良かったと思っています。夏休み中の2か月間は日本に滞在し、8月末にまた韓国に入国しました。荷物は寄宿舎の保管庫のようなところに保管してもらっていたので、楽に移動することができました。

学校が12月に終わると、すぐに寄宿舎から出る必要があるため、期末考査の勉強に加えて荷物を送らなければならず、忙しくなりました。私たち交換留学生は事前に帰国する日にちを伝え、韓国人学生たちよりも長く寄宿舎に残ることは可能です。私は学校が終わって割と早く帰国してしまったので、もっと旅行などをして帰ってくればよかったと後悔しました。ですが、12月の韓国はとても寒く、雪も沢山降っていてずっと雪が溶けずに道が凍っている状況でした。私が帰国した後にもっと寒くなったと聞いたので、寒くなる前に帰国できて良かったという気持ちにも少しなりました。

また、韓国は配達大国なので、あらゆるものを配達してもらえます。特に食べ物は、値段は安くありませんがよくいろいろなものを頼んで食べました。おすすめはBHCのプリンクルチーズボールと、サーティーワンと、マーラータンです！

▼デリバリーで頼んだクロッフル（左）とマーラータン（右）



【 学校の様子 】

▼寄宿舎から学校までの道（12月）



▼机の上に作られていたミニ雪だるま



▼学校に住み着いている猫たち

(人慣れしていて、それぞれに名前がついていてかわいかったです。)



【まとめ】

ここまで報告書を読んでくださりありがとうございました。私はこの交換留学に挑戦して、本当に多くのことを学び、韓国語能力だけではなく、人として成長できたと感じています。この貴重な体験と思い出を胸に刻み、これからの人生に活かしていきたいです。最後に、私を留学に送り出してくれた家族、国際教育交流センターの皆様、そして祥明大学の先生方、優しく話しかけてくれた学生みなさんに本当に感謝しています。ありがとうございました。